

大トチノキ開花観察会

2014年5月31日開催

平和堂財団の助成を受け開催している大トチノキ観察会、今年の第一回はトチノキの開花時期に開催しました。参加者21名（大人14名、子供7名）に、講師の青木先生以外にも2名の朽木の自然を知り尽くしている方が同行されるという贅沢な観察会になりました。

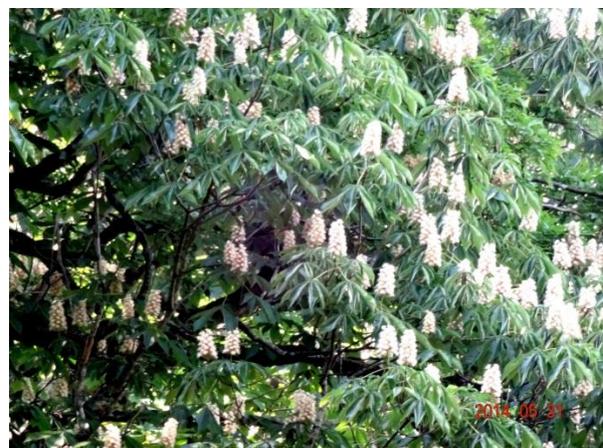
朽木中牧にある山帰来に10時に全員集合、挨拶の後に生杉のブナ原生林へ車で移動。緑あざやかなブナ林では、見事なブナの木々に混じってトチノキの高木もあり、ちょうど花が満開でした。落ちている実や花をひろい、ブナやトチノキの説明を聞き、ブナ林の観察道を登ってブナ林の美しさを味わいました。しかし、シカの食害により林の下の草はほとんど生えていないこと、その中でエゾユズリハ（毒のためにシカが食べない）が繁茂してきていることなど、シカの影響が生態系に深刻な変化をもたらしていることも教えられました。

子供たちの鋭い観察からの思いがけない質問にも青木先生は当意即妙、楽しい山歩きでした。おりにくると運の悪いシマヘビが。すかさずヘビ講義です。子供も大人も最初は拒否反応があるも青木先生の軽妙な語りにも恐る恐る・・・初めての経験に興奮気味でした。



昼に山帰来に戻り昼食、その後しばしの休憩をとりました。子供たちはさっそく小川でイモリ採集。あっという間にたくさん集めて喜んでいました。

その後、歩いていよいよ大トチノキとの面会に出発。かなり急な山道を1時間ほどかけて登りようやく目的地に到着しました。林床の草があまりはえていない明るい斜面に、見渡せるだけでも7~8本の巨木があり、実に堂々と威厳を感じます。1本の大木の前で、写真で示しながらのトチノキの話を聞きました。観察会のアンケートを見ると、このような林になるまで300年はかかること、トチノキは人にとって有用な木であったので保護され意図的に残されてきたこと、今の状態でトチノキが伐採されると林が荒廃することなどの話は特に印象深かったようです。このルートでも満開のトチノキを多く見ることができました。



帰りは元の道に戻らず道なき尾根伝いの急斜面を下り、無事山帰来に戻ることができました。かなり大変な道でしたが、生の森林土壌を足裏に感じながらの下山、良い思い出になったのではないのでしょうか。

目的としていたトチノキの花はみごとに満開でした。天候にも恵まれ、青木先生のわかりやすく心に残る話に楽しく有意義な観察会ができました。感想を書いて頂いたアンケートでも非常に好評で、開催側にとってうれしい回答が得られました。ご指導、ご支援いただいた方々に感謝します。

撮影：氏家副理事長、 文：中島理事